

## 鉄筋の結束作業などを体験

### 和歌山工業高校で出前講座

#### 関西鉄筋工業協同組合

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は7月6日、和歌山市西浜の和歌山県立和歌山工業高等学校（小山宣樹校長）で出前講座を行いました。当日は、建築科構造施工系の3年生39人と住環境系の3年生9人の計48人の生徒が受講し、職人の指導を受けながらミニチュアモデルの作成や実物大の鉄筋の結束作業などを体験しました。組合からは岩田理事長をはじめ戸田裕雄副理事長、田浦真一副理事長らのほか、6名の職人（いずれも鎌田鉄筋工業）、圧接組合の浜崎仁副理事長らが参加しました。

午前の開講に先立って岩田理事長が「鉄筋工事の役割や重要性だけでなく、社会人の厳しさも感じてほしい。本日の講座を通じて職人の心意気、仕事に対する誇りに触れることで建設業界にも興味を持ってもらえれば幸いです」と挨拶しました。

引き続き、まず森山部会長が講師となり、パワーポイントで昨年秋に完成した同校の新校舎の工事写真を紹介しながら免震・耐震装置の仕組みや鉄筋工事の役割などについて説明。また、同校の鉄筋工事に従事した東義男職長（鎌田鉄筋工業）が体験談として「この校舎では、免震装置周辺の配筋が複雑で苦勞したことが一番の思い出。我々職人は建物の安全を守る大事な部分を担っていることにやりがいを感じ、仕事に自信と誇りを持って打ち込んでいる」と話しました。

この後、4班に分かれた生徒たちは2級検定のミニチュアモデルの作成に取り組み、午後からはガス圧接作業の実演を見学した後、実物大の2級検定モデルの鉄筋組立作業に挑戦しました。最初は慣れない手つきでハッカーを使って結束作業に苦勞していた生徒たちも、プロの職人のアドバイスを受けながら少しずつスピードも早くなり、真剣な表情で組立作業に取り組んでいました。作業終了後には、同校の久原享教頭が「生徒たちは普段の授業よりも生き生きとしていたように思う。職人さん方の熱心なご指導には感動した。今後の進路選択に役立つものと考えている」と挨拶。また、生徒の代表も「指導してもらった職人さんを見て、将来こんな職人さんにつけたらなあと思いました。楽しく、明るく指導していただきありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。最後に組合の田浦副理事長が「鉄筋は建物が完成してしまうと外からは見えなくなってしまうが、人間の体で言う骨に当たる重要な部分です。それだけに職人たちは仕事に責任と誇りを持って取り組んでいます。きょうの出前講座を通じて職人たちのそうした気持ちを感じ取ってもらえれば幸いです」と述べて無事に出前講座を終了しました。

#### ※ 組合関係の参加者は次の通り（敬称略）

- ・ 岩田理事長、戸田副理事長、田浦副理事長、鎌田敦士（鎌田鉄筋工業）、森山直樹（城

東鉄筋)、恵谷信 (恵谷鉄筋)、辻本浩二 (辻本鉄筋工業)、大川義明、東義男、久世進、  
狗巻量也、羽藤省吾 (以上、鎌田鉄筋工業)

